

ツムラ猪苓湯の使用経験

安城更生病院泌尿器科（部長：和志田裕人）

和志田裕人

上田公介

渡辺秀輝

THE CLINICAL EXPERIENCE OF TSUMURA CHOREITO

Hiroto WASHIDA, Kosuke UEDA and Hideki WATANABE

From the Department of Urology, Anjo Kosei Hospital

Tsumura Choreito, 2.5g twice a day, was administered to 44 patients who had vague symptoms such as dysuria and residual urine with normal urinalysis and 4 patients with stress incontinence.

Of the 44 cases in the vague symptoms group, 10 patients had excellent results (23 percent, 7 of them were female), 26 had good results (59 percent, 20 of them were female), and 8 had poor results (18 percent, all were female).

Among the 4 stress incontinence group, 2 patients had excellent results (75 percent), 1 had good response (25 percent) and 1 had poor response (25 percent).

緒言

「猪苓湯」という処方漢方医書の教科書ともいわれる「傷寒論」に収載されているものであって、尿量減少、排泄困難、口渴を訴える時は「猪苓湯の証」といわれ、尿道炎、膀胱炎、腎盂炎、腎炎などに有効であるとされている。

泌尿器機外来を受診する患者のなかで、尿にはほとんど所見がないのに、膀胱症状を訴えるものがかなりあり、その治療に困難な時もある。今回はそのような症例を主にして、「ツムラ猪苓湯」を使用する機会があったのでその経験を報告する。

臨床経験

I 使用薬剤

ツムラ猪苓湯エキス顆粒（調剤用）5g中に、チコレイ3g（以下g）、タクシャ3、ブクリョウ3、カッセキ3、アキョウ3、の割合の混合生薬の乾燥エキス粉末0.7gを含有する。

II 投与方法および投与量

ツムラ猪苓湯を1日2回、1回2.5gを経口投与した。

III 対象疾患

次の各群の疾患に投与した。

1. 不定愁訴群：尿所見は正常であるが、排尿後不快感、残尿感あるいは尿意頻数などの膀胱症状を訴える、女性35例（平均年齢48歳）と男性9例（平均年齢40歳）の計44例。

2. 女性の stress incontinence 群：4例（平均年齢48歳）である。

IV 成績

1. 不定愁訴群

治療効果はツムラ猪苓湯を2～4週間服用後に、訴えの全く消失したものの著効、軽快したものを有効、全く変わらないものを無効と判定した。この基準による成績はTable 1に示したように、女性では35例中著効7例（20%）、有効20例（57%）、無効8例（23%）、男性では9例中著効3例（33%）、有効6例（67%）であり、男・女あわせて44例中著効10例（23%）、有効26例（59%）、無効8例（18%）であった。

症例1. 53歳、女性、約2カ月前より某医にて膀胱炎として治療を受けているが、残尿感、排尿後不快感、頻尿（昼間7～10回、夜間1～2回）を訴えて当科を受診した。体型は中等度、腹部触診では下腹部恥骨直

Table 1. ツムラ猪苓湯の不定愁訴に対する効果 (例)

効果	性別	女 性		男 性		計
		効	無効	効	無効	
著効		7		3		10
有効		20		6		26
無効		8		0		8
計		35		9		44

上附近に圧迫により軽い尿意を感じる他は特記すべき所見はない。検査所見：検尿、色 麦わら色澄明、尿タンパク陰性、潜血反応陰性、討 陰性、沈渣白血球(－)、赤血球(－)、尿一般細菌培養 陰性。

ツムラ猪苓湯 5g/日にて7日後には、残尿感、排尿後不快感はほとんど消失し、排尿回数も昼間4～6回、夜間は0と減少した。初診より3週目には全くの正常の排常の排尿状態となった(著効)。

症例2. 28歳、男性、排尿後の軽度の疼痛、不快感を主訴として受診した。体格は中等度、腹部触診では腹部は柔らかくとくに所見は認めなかった。前立腺はクルミ大、表面平滑弾性硬、軽度の圧迫を訴えた。検尿：色調 麦わら色、ごくわずかの混濁を認めた。尿沈渣 白血球 4～6/×400、赤血球 陰性、尿一般細菌培養 陰性であった。

ツムラ猪苓湯 5g/日にて7日後には自覚症状はほとんど消失し、尿沈渣も正常化した。さらに3週間投与を続け完治した。投与開始後3週間目位に軽い胃部不快感を訴えたが健胃剤の併用で消失した(著効)。

2. Stress incontinence 群

治療効果は本剤の服用2～4週後にて、Stress incontinence が全く消失したものを著効、軽快したものを有効、全く変わらないものを無効とした。この基準によると、著効2例(50%)、有効1例(25%)、無効1例(25%)であった(Table 2)。

Table 2. ツムラ猪苓湯の stress incontinence に対する効果

効	果	例	数
著効	効	2	
有効	効	1	
無効	効	1	
計		4	

症例3 60歳、女性、数年来の Stress incontinence を主訴として受診した。出産歴は4回でいずれも満期安産であった。体型は中等度腹部触診では柔らかく特記すべき所見は認められなかった。検尿：麦わら色澄

明、タンパク 陰性、潜血反応 陰性、尿糖 陰性、沈渣：白血球(－)、赤血球(－)、尿中一般細菌培養 陰性 であった。

ツムラ猪苓湯 5g/日にて2週後には Stress incontinence はほとんどなくなり、さらに1週間の投与にて全く消失した(著効)。

考 察

漢方医学は何千年の経験により精選淘汰されたすぐれた治療方法であるとされている。漢方医学は「証」という症候群をとらえ、この「証」に合わせて薬を用いればよいのであるが、「証」を確認するのは難しく、主観と勘が多分に加わるために、漢方医学に熟した医師でないと薬が使えない、すなわち治療ができないきらいがある。漢方は「証」という症候群をとらえるとそれに対する処方がきまっており「キー・アンド・ロック方式」になっているといわれ¹⁾、処方された生薬の薬理作用からだけでは薬の効果が期待されない場合もあるが、著者らは漢方医学には全くの門外漢であるので、今回、漢方医学特有の「診断法」、²⁾「証」を考慮に入れずに、ツムラ猪苓湯の生薬成分の薬理作用を期待して、ツムラ猪苓湯が有効であるとされる膀胱症状に対して使用した。

ツムラ猪苓湯を構成する生薬成分とそれぞれの薬理作用の概要は Table 3 に示したとおりである。猪苓はサルノコシカケ科のチョレイの菌体で、成分は未詳であるが、利尿、解熱、止渴の効と鎮静作用があるとされている^{2,3)}、茯苓は担子菌類の1種であり、クロマツまたはアカマツの死木の根に寄生し、生薬としてはその菌核体を利用する。成分は生薬の乾燥物の94.2%は多糖体よりなり1種の glucan であり、その他にトリテルペン酸(eburicolic acid dehydroeburicolic acid etc)を含有する。その作用は身体内の水分代謝を調整し、興奮と動悸を静める力があるとされている^{4,5)}。猪苓湯はこれら猪苓・茯苓の消失・利尿作用に滑石と阿膠の鎮静・緩和の作用が相加あるいは相乗的に働きその作用が増強されるのである⁶⁾。しかし感染性疾患に対しては、化学療法を主体とする治療が有効であることは周知のことであり、今回の対象は、膀胱症状はあるが、尿所見には異常を認めなかった症例にしたのである。このため、薬剤の効果判定には自覚症状の推移に重きを置いた基準であったが、不定愁訴群には82%、stress incontinence 群には75%の有効率を得、ほぼ満足すべき結果であった。

今回の経験だけでは泌尿器科領域と漢方医学の結びつきに言及することは早計であるが、他科領域におい

Table 3. ツムラ・チョレイトウを構成する生薬成分の概要

配 合 生 薬	基 源	主 成 分	薬 効
日局チョレイ	チョレイマイタケ (サルノコシカケ科) の菌核	ergosterol など	利尿, 解熱, 止渴薬として重要な一要素とされる.
カ ッ セ キ	含水ケイ酸マグネシウム	ケイ酸マグネシウム	利尿, 消炎作用があり, 尿路・膀胱の諸疾患に用いられる.
日局ブクリョウ	マツホド (サルノコシカケ科) の菌核	四環性トリテルペン酸, polysaccharide, ergosterol	利尿, 鎮静薬として用いる.
ア キ ョ ウ	哺乳類の皮部より製したゼラチン	glutin	膠質は刺激緩和, 保護作用があり, 粘漿剤とする.
日局タクシヨ	サジオモダカ (オモダカ科) の塊茎	多量のデンプンを含有	利尿, 止渴薬として用いる.

では、漢方医学と臨床検査が同時におこなわれ、漢方医学の有用性が経験的にだけでなく、科学的に証明されつつある^{1,7)}。著者も今回の経験を機会に漢方医学に臨床的検査を加えてさらに一層検討を加えていく予定である。

結 語

尿所見は異常であるが、排尿後不快感、残尿感などの膀胱症状を訴える不定愁訴群44例と stress incontinence 群4例にツムラ猪苓湯 5.0 g/日、分2の投与をおこない次の成績を得た。

1. 不定愁訴群：著効10例 23% (女性7例)、有効26例 59% (女性20例)、無効8例 18% (女性8例)であった。

2. stress incontinence 群：著効2例 50%、有効1例 25%、無効1例 25%であった。

稿を終るにあたりツムラ猪苓湯の提供を受けた(株)津村順天堂に感謝します。

なお本論文の要旨は第120回東海泌尿器科学会にて発表した。

参 考 文 献

- 1) 有地 滋：薬物療法, 10: 71~90, 1977.
- 2) 刈米達夫：和漢生薬, p. 322, 広川書店, 東京, 昭和49年
- 3) 大塚敬節：傷寒論解説, p. 102, 創元社, 大阪 昭和52年
- 4) 刈米達夫：和漢生薬, p. 323, 広川書店, 東京, 昭和49年
- 5) 大塚敬節：傷寒論解説, p. 106, 創元社, 大阪, 昭和52年
- 6) 大塚敬節：症候による 漢方治療の実際, p. 439, 南山堂, 東京, 1975.
- 7) 松本 裕・奥瀬 哲：診察と新薬, 14: 1463, 1976.

(1978年5月25日受付)